

参加者 14名

4期 佐藤

8期 野村孝

11期 青柳 井上 片田

12期 野村益 宮島

13期 山西 (二人)

15期 上馬

20期 松下

22期 黒崎

26期 畠山 (二人) 日帰り

去年のスキー合宿は20周年記念として盛大に行われ、幹事の青柳さんには立派な記念文集を作って頂きました。今年は節目の一年後に当たり、私は新たな気持ちで臨みました。

ところが予定日の間際になって参加予定者の2名が郷里のスキー場にて転倒してケガをされ参加できないという思いがけないメールが入ってきました。後で聞いたのですが、その内の1人の方はマラソンをされていて運動不足とはいえないとのこと。その方にとってはあくまでも、不運な事故であったと思われます。

幸先の好くない出だしでしたが、日帰りの2名を含めて14名の参加者があり全員ケガされことなく、無事スキー合宿終了しました。

以後の報告文は、私が行動をしたことを中心に書き記したいと思います。

2月16日(金)

上信越道を北上し、マイカーで豊田インターを出る。高社山を右に見て飯山に入る、積雪の量は例年のごとく曇りの日である。野沢温泉スキー場のある毛無山の稜線、そして、志賀高原辺り山々は良く見える。雪の日の多い北信県境の地としてはかなり好い天気かと思う。

合宿する宿「ふるさと」に10時すこし前に着く。誰もいないフロントの横の従業員室の方に聞くと、井上さんが先程着いてスキー場に出ているとの事。それならばということで、11時頃の予定で着くという大方の参加者を待つことなくゲレンデに向かう。宿の直ぐ上のリフト券売り場にて、3日券を1万円、カードで支払い、上の平下部の初級者コース日影ゲレンデで足慣らしに2,3回滑

りました。地元のシニアスキー教室で滑るようにはいかなく、早々打ち切り、上の平上部のその日の集合場所のレストハウスへゴンドラに乗って向かいました。

そこで食事をとり、井上さん、山西さん夫妻と同席しました。私がぐずって食膳を戻さないでいると、山西さんは甲斐甲斐しくそれを片付けてくださいました。山西さんは控えめで本当に優しい女医さん(せんせい)と私には思えました。

昼すこし過ぎたころ、佐藤さん、野村さん(8期)幹事の青柳さん、私と同期の野村さん、上馬さんが加わり、この日の参加者は一堂に集合しました。

休息とおしゃべりをした後、大方全員で乗り継いで毛無山の頂上に上り、スキーを履いたままそこで記念撮影をしました。

(写真1)



毛無山頂上にて

西には北信五岳が良く見え、東方には苗場山そして、南方には志賀高原の焼額山を見渡すことができました。ここで前日より来場されている山西さんのご主人が一旦富山に帰るとの事で青柳さん、井上さんが途中まで見送ることになり、我々と別れました。残りの佐藤さん、上馬さん、野村さん(12期)と私4人で頂上の東斜面やまびこA(中級コース)を滑りました。野村さんには写真撮影しながら我々と同行して滑って頂きました。

私を除いて他の3人は難なく上手に滑っていましたが、不整地の雪面の苦手な私は様にならない滑りをして他の人に遅れて追いつきませんでした。2,3回リフトに乗ったと思うのですが、膝

が少し痛くなったので無理をせず皆と別れ下山しました。林道を下って宿「ふるさと」の近くの柄沢ゲレンデまでリフトを使って向かったのですが、膝の上部が大変いたみだしました。

第一日目は雪降りでなかったもので、ほとんどの方が4時ごろ宿にもどってきたようです。同期の野村さんとはブドウ酒を飲みながら山行の話などして夕食を迎えました。

一杯のビール等が添えられ、尽きることなく談笑し、食事の終わる頃は周りの全ての外人客は席を離れていました。

夕食後 20 畳位ある広間「ゆうぎり」に集まり、脱サラして、金沢にお店を開いた今年初参加の黒崎さんをスタートに自己紹介の形で、各自話をしました。長々と個人的な思い出話をされる方々あるなかで、佐藤さんが部の草創期の話が興味を引きました。自然と関わることをライフワークとした上馬さんは、学生の頃よく部の小屋を利用し、小屋までの、そして高三郎の頂上までの鳥の鳴き声を記録したことを話されました。私には、かつての倉谷の部落、そして、高三郎の山々が目の前に浮かんで来るようでした。



2月17日（土）

朝起きて外を見ると天気予報どおり雪。各自8時過ぎよりゲレンデへと滑りに出て行く。私といえば、やや膝が曲がりにくいので昼ごろまで宿でのんびりすることにしました。雪降りですぐ外湯へ行くのが辛いので宿のご主人にお願いして内湯に入れて貰いました。膝を温めたせいか幾分膝の具合が良くなり、11時過ぎに思い切ってゲレンデに向かう。リフトを乗り継いで日影ゲレンデに着くころ雪降りがひどく、地吹雪のように前が真っ白で進むことが全く困難、必死の思いで近くのレ

ストランに飛び込みました。酷い雪降りですぐ逃げてきた外人でいっぱい。東洋人も相当に多い。

そこで食事をとりゲレンデに出ることは無理と判断してシャトルバスで宿に戻りました。午後、今日参加された片田さんとともにオリンピックの男子フィギュアスケートの模様をテレビで観戦する。羽生選手が金メダル、宇野選手が銀メダルの快挙でした。片田さんはこの雪の中ロングコースのスカイラインコースを滑ってきて、コースから外れてしまったと言っていました。私には、片田さんの若さが羨ましく思われました。

この日は大方3時過ぎ頃まで滑っていたようですが、激しい雪の中、しかも上部の上の平で行動していたと聞きましたが、どのようにしていたのか私には不審に思われました。

夕食前に、山スキーの得意な初参加の上越市在住の畠山（26期）さんが奥さんを連れて顔を出してくださいました。若い畠山さんは今回日帰りということですが、来年以降は合宿を引き継いでくれることを一同皆期待しています。そこで畠山さん夫妻と参加者全員そろって「ゆうぎりの間」にて記念撮影しました。

（写真2）



ゆうぎりの間にて

この日も尽きることなくおしゃべりして夕食をとり、その間に幹事青柳さんよりスキー合宿の記念文集作成の会計報告がありました。本当に青柳さんには言葉に尽くせないほどご面倒をお掛けしています。

夕食後「ゆうぎり」にて例年のごとく発表会がありました。青柳さんがオリンピックでメダル有望の小平奈緒選手の所属する相沢病院の理事長

および各界の名士と同席する写真映像を見ました。次に、青柳さんの同期の井上さんが立山で上級のスキー滑降している勇姿をビデオで鑑賞しました。

今期は外国の遠征記録はなく、田村さんが参加されなかったのも、氏独自の世の提言もありませんでした。やや寂しい感じは免れませんでした。続いて例年山小屋付近の作業に参加されている松下(20期)さんより昨年の報告をして頂きました。文集で報告した通り特殊な刃のついた草刈り機で、笹や小さい木を刈り倒すことが出来るので、道づくりが大いに捗っており、今年は高三郎の頂上まで道が整備されそうとのこと。多くの方にむかしを思い返して登っていただけたならば、苦勞されている関係者も報われるのではないのでしょうか。

2月18日(日)

今日も雪降り、私と松下さんをのぞいて9時頃までには、ほとんどの方がゲレンデに向かって行ったようである。私の膝の状態が幾分良くなったので、雪降りの中でも何とか滑りたくなり、朝から外湯に入り膝を温めました。松下さんに遅れ11時頃、初級コースの日影ゲレンデに向かい数回リフトに乗り小雪の中を滑り降りました。

その日は正午に上の平のレストハウスに集合となっていました、スキーを脱いでゴンドラに乗るのが面倒になり、取りやめて近くのレストランにて食事を取り宿に戻りました。この日皆と一緒に滑ることは出来ませんでした、今日の滑りで膝の悪い私も今回の合宿に十分満足することができました。

金沢方面の3人、上馬さん、野村さん、佐藤さんの乗った帰りの車を見送り、2時過ぎ頃から、私と井上さん、そして青柳さん3人で残り物の菓子等を食べながら宿の玄関の入口の土間の椅子に座って寛ぎました。そして来年もきっと参加しようという気持ちで両名と別れ、私は宿を後にしました。

幹事青柳さんの合宿終了後のメールに「無事終わって心底ホットした」と書かれておりました。今回は特に若くないものの集まりですから、殆どの参加者がそのように思われたのではないのでしょうか。青柳さんは、メールで申し込みの時か

ら気さくに声をかけてくれ、人との繋がりを強く実感させてくれる世話人のようになって居られます。本当に言葉に尽くせないほど幹事青柳さんに感謝しています。

以上、恥を凌いで下手な文章を書いてしまいました。最後に古希を過ぎた私にとって、このように楽しいひと時を与えて下さった参加者皆様本当に感謝したいと思います。そして何時までも金大ワンゲルOBスキー合宿が引き継がれることを心より希望します。

